

研究課題名	小児におけるインフルエンザ発症の関連因子に関する研究（2018/19～2019/20 シーズンの検討）
研究の意義・目的	小さいお子さまはインフルエンザにかかると重症になりやすいといわれています。インフルエンザワクチンの接種により、インフルエンザの発症リスクが約 1/2 に減ることが分かってきましたが、その他の因子がどのように影響しているかについては不明な点が多い状況です。本研究では、厚生労働省研究班が 2018/19 および 2019/20 インフルエンザシーズンに実施した調査でご提供いただいた情報を用いて、お子さまのインフルエンザ発症に関する因子を詳しく分析します。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日 ～ 2025年3月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	厚生労働省研究班が 2018/19 および 2019/20 インフルエンザシーズンに実施した「小児のインフルエンザ予防に関する疫学調査」（倫理審査委員会承認番号 3911、以下「先行調査」と言います）に参加したお子さまが対象になります。お子さまの参加当時の年齢は 3 歳未満で、下記のいずれかの小児科診療所で保護者から文書による参加同意をいただいた後、鼻汁吸引液とアンケート回答内容をご提供いただいています。 【大阪府】 ふじおか小児科、松下こどもクリニック、くぼたこどもクリニック、八木小児科 【福岡県】 高崎小児科医院、しんどう小児科医院、きよまつ小児科医院
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<ul style="list-style-type: none"> ● 先行調査にお子さまが参加された際、ご提供いただいた試料（鼻汁吸引液）を用いて検査した結果と、アンケートにご回答いただいた内容を、本研究で使用させていただきます。また、当時の診療録に記載されている情報を、本研究で使用させていただきます。 ● 先行調査にご参加いただいたお子さまや保護者の方に、お電話などで直接問い合わせることは一切ありません。当時の検査結果とアンケートにご回答いただいた内容は、大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学で保管していますので、これらの情報を使用した分析を行います。
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学のみで行い、他の機関に情報の提供はいたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 教授 福島若葉
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科・公衆衛生学 担当：福島若葉 電話：06-6645-3756